

区民と区長のタウンミーティング概要

日 時	令和2年10月18日（日曜日） 14時から16時
会 場	中野区役所 第8～10会議室
テ ー マ	中野区基本構想改定検討素案について
出席者 区 民	計14人
区 側	区長、企画部長、基本構想担当課長、企画部参事（企画担当）
一 時 保 育	無
手 話 通 訳	無

区長あいさつ	
<p>基本構想検討素案についての区民意見交換会は、2月に1回実施した後に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中断していた。この意見交換会は、新型コロナウイルス感染症の影響などを踏まえて基本構想検討素案を改定したので、改めて実施することとしたものである。</p> <p>基本構想は、中野が10年後に目指すまちの姿を描くものである。重視しているのは、少子高齢化対策である。日本全体の人口は減少しているが、中野区は、当面の間は人口は減らないと推計している。しかしながら、現在、0～14歳が区の全人口に占める割合は、23区中で最下位である。子育て家庭が暮らしやすい環境を整えていく必要がある。また、中野区の65歳以上の人口は増加傾向が続き、一方、総人口は2035年をピークに、その後減少すると考えている。これから、3人に1人が高齢者という社会が到来する中で、地域で支えあい、誰もが安心して暮らせるようにしていく必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、皆さんの生活に大きな影響を及ぼしていることから、日頃感じていることについても聴かせてほしい。</p>	
区民の意見・質問	区長の回答等
<p>新型コロナウイルス感染症の影響について、10年後に目指すまちの姿については、どこを見直したのか。</p>	<p>まちの姿(1)「地域愛と人のつながりを広げます」に、「場所や時間を選ばず」という文言を加えた。「地域経済活動を活性化させます」に、「区内産業の持続的な発展」という文言を加えた。</p> <p>まちの姿(3)「人生100年時代を安心して過ごせる体制を構築します」に、「つながりやICTの活用による」という文言を加えた。</p> <p>まちの姿(4)「危機の発生に備えた体制を強化します」に、「行動の変化が生まれ」という文言を加えた。「3 基本構想を実現するために」の「社会の変化を見据えた質の高い行政サービスを提供します」に、「デジタル化を加速させながら…」という文言を加えた。危機の発生に備えた体制を強化します」に、「自然災害や感染症などの」という文言を加えた。</p>
<p>中野区基本構想改定検討素案を作成したとのことだが、何に対する改定なのか。</p>	<p>改定検討素案の「改定」は、令和2年1月に作成した検討素案を改定したという意味である。</p> <p>なお、「1 改定の背景」における「改定」は、平成28年3月の現行の内容に対して改定するという意味である。</p>
<p>新区役所の整備や、中野駅周辺・西武新宿線沿線まちづくりなど、空間の利用についても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を踏まえた文言を盛り込むべきではないか。</p>	<p>「社会の変化を見据えた質の高い行政サービスを提供します」に、新区役所の整備に合わせてデジタル化を進めていくことも含んでいる。まちづくりについては、「時代の変化に対応したまちづくりを進めます」や「快適で魅力ある住環境をつくります」で描くまちの姿と、方向性は変わらないと考えている。</p>
<p>「社会の変化に対応した質の高い教育を実現します」に、子どもの人間形成について盛り込んでほしい。</p>	<p>質の高い教育の中に、子どもの人間形成に関わる内容を含んでいる。</p>

区民の意見・質問	区長の回答等
<p>教育に関する記述が少ないのは、中野区教育大綱に詳細を描くこととしているためか。</p>	<p>区の教育に関する方向性については、基本構想で描いている。教育大綱は、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものであり、基本構想の改定等を踏まえ、検討する。</p>
<p>医療や福祉について、「人生100年時代を安心して過ごせる体制を構築します」でしか記載がないため、もっと盛り込んでほしい。</p>	<p>医療については、「生涯を通じて楽しく健康に過ごせる環境をつくります」の「自然と健康的なライフスタイルが身に付く環境が整う」の中に含まれている。福祉については、「誰一人取り残されることのない支援体制を構築します」等の中で表現している。</p>
<p>まちの姿(1)は、基本構想審議会の答申では、ゆるやかなつながりにより、様々な活動が盛り上がり、心豊かな「なかの暮らし」を形成するという主旨だったと思うので、「東京の新たな活力とにぎわいを世界に発信します」は、まちの姿(4)に位置づける方がよい。</p>	<p>中野駅周辺まちづくりは、多様な経済・文化活動との親和性が高いため、まちの姿(1)に位置づけている。</p>
<p>「区民に信頼される対話と参加の区政を進めます」は、これからの地方自治のあり方のポイントと思うので、「3 基本構想を実現するために」ではなく、まちの根幹の理念や社会のあり方を描いているまちの姿(1)に位置づける方がよい。</p>	<p>今後、基本構想への記載について検討していきたい。</p>
<p>緑を増やすことを意識的に行っていくべきだと思うので、まちに緑を増やし、農業を応援することを盛り込んでほしい。</p>	<p>緑を増やすことについては、「環境負荷の少ない持続可能なまちをつくります」という言葉にみどりを大切にし、保全していくなどの意味を包括しており、ご意見の主旨は含まれている。都市農業については、中野区の特徴を踏まえ記載していない。</p>
<p>新しい生活様式への移行が進む中で、区民一人ひとりがICTを活用して必要な情報を得られ利便性が向上するなど、区民が生活の質の向上を実感できるスマートシティの実現に向けて、企業等と連携しながら、情報インフラ整備を行っていくことが必要だと思う。</p>	<p>現在、1階総合窓口の混雑情報をホームページで配信するなど、ICTを活用した取組を進めているところである。スマートシティという言葉では記載していないが、「社会の変化を見据えた質の高い行政サービスを提供します」において、方向性を示しており、企業等とのパートナーシップのもと、デジタル化を加速させながら、質の高い行政サービスを進めていく考えである。</p>
<p>他の自治体と共通した内容が記載されていると感じるので、区として優先して取り組むことが分かるように記載してほしい。</p>	<p>まちの姿は優先順位で並べたものではないが、具体的な取組内容については、基本計画等の中で検討していく。</p>
<p>新型コロナウイルス感染症の拡大や災害の発生を受けて、一人ひとりの責任能力が求められるようになってきたと感じる。今後、ますます危機の発生時には、自分で情報を得て活用し対応することが必要になってくると思うので、区の情報発信の仕方も工夫してほしい。</p>	<p>区ホームページでの発信だけでなく、ICTを使い積極的な発信をしていく考えである。</p>

区民の意見・質問	区長の回答等
新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を踏まえて、高齢者への就労支援について盛り込んでほしい。	高齢者への就労支援は重要だと思っている。検討していきたい。
まちの姿の記載の順番について、大規模災害や感染症等、命そのものへの不安が広がる中で、4つ目のまちの姿が最も大切だと感じているので、順番を一番最初にした方がよいと思う。	まちの姿の記載は施策の優先順位で並べたものではなく、全体像として描いている。まちの姿(1)は、まちの根幹の理念や社会のあり方を描き、(2)・(3)は、暮らしの質を高めるための教育や福祉などについて、成長の段階に応じて描き、(4)は、安全・安心な暮らしを支える都市基盤やまちづくりなどを描いたものである。
「地域愛と人のつながりを広げます」に、「場所や時間を選ばず気軽に地域で関わりを持てる」とあるが、新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえて、地域の活動をオンラインでも知ることができるようにするなど、具体的な取組を進めてほしい。	地域の団体の活動はホームページやフェイスブックなどのSNSなどを活用して広く周知を行っていく。区民活動センターにインターネット環境を整え、地域の活動に利用していただくことも検討している。
「地域経済活動を活性化させます」とあるが、減取していく産業もあると思うので、例えば、デリバリーサービスの充実や駅周辺でのサテライトオフィスの設置など、新しい生活様式に合った魅力ある取組が必要だと思う。	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、これからはリスクを分散したまちづくりが必要だと考えている。
新型コロナウイルス感染症の影響で、宅配サービスが増え、自転車のマナーが悪いと感じることが増えた。対応が必要だと思う。	交通ルール・マナーの向上を図るために、警察と連携して自転車安全利用講習会や交通安全講習会を開催し、昨年度は1804人が受講した。講習会の受講者には、自転車点検整備費の助成券を配布するなど、自転車を安全に利用するための事業を行っている。警察等関係機関や地域の方々と協力し、啓発活動やキャンペーン、区報、ホームページなどでの啓発・広報を引き続き行っていく。また、自転車利用者に対する交通違反の指導及び取締りを警察に要請していく。
ふるさと納税について、他の自治体では、飲食店の食品ロスの削減や生産者を支援するなど、市民に訴えるメニューをそろえている自治体も少なくない。中野区のふるさと納税も魅力の向上に取り組んでほしい。	クラウドファンディングの活用や、全国の中野のファンを揺さぶるものを用意するなど、魅力の向上に取り組んでいく考えである。
区は、これまでに何をやってきて、何を次につないでいきたいのか。新型コロナウイルス感染症の影響があっても、地域の催しについても、できる範囲で行いながら、地域のつながりを取り戻していくことが大切だと思う。	中野の伝統で良いところは、自治活動だと思っている。町会・自治会の活動も盛んだと思っており、今後も、そういった区の良いところを活かしていきたいと考えている。地域の活動は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていると思うが、現在、区でも区民公益活動団体向けのガイドラインを作成し、区職員が助言する取組を行っているので、活用してほしい。
「社会の変化に対応した質の高い教育を実現します」に、「学校や幼稚園、保育園などの円滑な接続や交流が行われ」とあるが、「接続」という言葉は分かりにくいので、表現を変えた方がよい。	学習指導要領においても「学校段階間の接続」「小学校教育との接続」などと「接続」という言葉で示されており、区も、こうした表現を用いている。

区民の意見・質問	区長の回答等
「狭い道路や木造住宅密集地域が多い」とあるが、気候変動の影響や水害についても記載してほしい。	今後、基本構想への記載について検討していきたい。
新型コロナウイルス感染症による死亡者数について、なぜ区ごとに公表されないのか。	新型コロナウイルス感染症による死亡者数については、東京都でしかデータを持っていない。区として、把握しているデータは公表したい。ただ、個別の詳細データについては公表する必要はないと考えている。
新しい生活様式について、区でも区民公益活動団体向けのガイドライン等を作成しているとのことだが、浸透していないと思うので、区民に活用されるよう、積極的に周知してほしい。	区ホームページや、区民活動センター、各団体等に周知をしているが、地域活動応援窓口と併せて今後もより広く周知していく。
外国籍の子どもが外国人学校ではなく、区立小中学校にも通えるようになるとうい。	中野区では外国人が増加しており、区立小中学校でも、日本語が話せない児童・生徒も増えている。外国語を話せる留学生ボランティアが話相手となったり、教育支援室での各教科等の補充学習教室をより充実させたりするなどの取組を進めていきたい。
歩道が狭く、親子で歩くには危ないと感じるので、改善してほしい。	駅周辺のまちづくりでは、歩車分離した安全な歩行空間を積極的に整備したいと考えている。また、順次、段差解消にも取り組んでいる。計画的に改善していきたい。
新型コロナウイルス感染症の影響により、自宅で仕事をする人が増加したため、家庭ゴミが増え、道路にごみのはみ出しが増えた。今後10年でITは急速に変化し、新たなサービスが次々と生み出されるものだと思うので、行政サービスのデジタル化もよいが、ごみの回収などの直接的な行政サービスもしっかりと行ってほしい。	ごみの排出マナーの向上については、力を入れて取り組んでおり、ごみの集積場は、マナーが良いところも増えているので、今後も継続していきたい。行政サービスのデジタル化も進めるが、一方で直接的なサービスも適切に提供していく考えである。
親しみやすい基本構想を目指すのは良いことだと思うが、内容が簡潔すぎるので、基本構想審議会の答申に記載されている内容をもっと盛り込んでほしい。	より分かりやすいものとする主旨のもと、基本構想審議会の答申を踏まえ、作成した。また、基本計画の策定においても、審議会答申の内容も踏まえて検討していく。